

く、résuméという意図をもって独自に編纂された書物」(xiii頁)である。したがって、*Epitome* を的確に翻訳するためには、*Fabrica* の詳しい記述を是非とも参照する必要があるが、訳文から判断する限り、その努力の跡は見られない。

訳文中に挿入された短い注釈は比較的よく整備されているが、訳者解説には、誤りや不備が散見される。例えば、*Epitome* の独・蘭・英訳の存在は指摘されているが、重要な仏訳(一五六九年刊行)の存在には触れていない。*Fabrica* と *Epitome* の判型は同じとあるが、実際は後者のほうがかなり大きい。両書に共通しないわゆる「神経人」の図は、別の版本からではなく同一の版木から刷られた。*Epitome* の特色のひとつとして、教育上の画期的な工夫である剪型解剖図を含んでいることを指摘できるが、その点の解説がない。

出版元は、医学書・ラテン語書では定評のある、老舗の南江堂である。同社がなぜ、このように問題の多い本を出版したのか、評者は理解に苦しんでいる。

(近藤均)

〔株式会社南江堂、東京都文京区本郷三―四二一六、電話〇三一三八―一七二三六、一九九四年四月刊、B五判、九六頁、四二〇〇円〕

鶴見大学図書館

『特定テーマ別蔵書目録集成4―漢方と泰西医学』

本書はタイトルの示すとおり、鶴見大学図書館(横浜市鶴見区)の蔵書目録の一つで、テーマ別の第4集として「古医書」を対象に編まれたものである。

はじめに柳澤慧二歯学部長の「古医書目録」刊行にあたって」という序文があり、ついで本学会評議員でもある戸出一郎歯学部非常勤講師の「古医学芳蹟」と題する収録医書の解説がある。戸出氏のこの解説は短文ながらきわめて要を尽くしており、これによって収録貴重書の大抵が知れる。その経緯については左記のようにある。

「鶴見大学に古医書が蒐集されたのは、本学に歯学部が創設された一九七〇年以後のことで、当時、新設歯学部の図書購入に当られた故今川与曹先生が、書肆を通じて某蒐集家から三二〇点の古医書を購入されたことに始まる。これらの古医書は書誌学・医史学の両面から見て質の高いもので、思わぬ掘出物に関係者の喜びは大きかった。

その後、このコレクションを核として各時代における善本を増補し、今日までに総数四六五点になったので、この度目録を編纂して発表することとなった。」

凡例によると、本目録の収載範囲は、日本および中国・朝鮮で、主として江戸時代(一部西洋医学書は明治時代に及ぶ)ま

でに筆写または刊行された資料で、収載点数は、写本が六一
点七三冊、版本が四〇四点一七五三冊、合計四六五点一八二
六冊。うち唐本六九六冊、韓本二点一一冊、古活字版二点
二冊、近世木活字版八四七冊を含むという。

次に写真版が四頁にわたり、二種類の貴重書の書影が掲げ
られている。いまそれを紹介してみよう。

『黄帝内经素問』。これは明の万曆四十三年（一六一五）朝鮮
の内医院より刊行されたいわゆる韓版。三木栄『朝鮮医書誌』
に万曆四十三年活字韓版（三木旧蔵・杏雨書屋現蔵）が載ってい
るが、これはその覆せ刻りであろう。十二巻本で、もとは中
国元刊本に由来する。

『素問入式運氣論奥』。慶長十六年（一六一一）吉田宗恂の門
人で当時の有力な書肆であった梅寿の刊行になる古活字版。
同書の日本初刊本で、宮内庁書陵部・東洋文庫・大東急記念
文庫・京都大学附属図書館に同版本がある。また同年刊の異
植字版も存在する。

『格致余論』。本書は目録に鑑定されるごとく明初の刊本で、
「東垣十書」の一つとして出されたものである。フランク・
ホーレイ旧蔵の珍本。

『黄帝内经素問註証発微』。万曆十四年（一五八六）序刊本で、
これは多分初刊本であろう。

『医学源流』。これは日本最初の刊行医書として有名な大永八
年（一五二八）阿佐井野宗瑞刊『医書大全』の首巻である。

『明医雜著』。実際には『節齋医論』と題する古活字本。大東

急記念文庫に同版本があり、慶長中刊本と推定される。

『傷寒日期纂攷』。森立之の著で、従来、杏雨書屋に弟子青山
道醇の模鈔本があることは知られていたが、これはその原本
たる森立之の自筆稿本。文久二年（一八六二）成稿。反町弘文
荘旧蔵。

『頓医鈔』。永禄十年（一五六七）の写にかかる卷四十七の零
本。

最後に『泰西本草名疏』『医範提綱内象銅版図』『重訂解体
新書銅版全図』の写真がある。

戸出氏は本日録収載書を総括して次のように述べている。
「全体を概括して言えば、この蔵書は、我国医学の各時代・
各分野・各科において、その出发点となつた重要な書物が
重点的に集められている。慶長・元和・寛永のものが多い
のはそのためである。従つて初版本又はそれに近い版本が
多く、稀覯書もあり、この方面の研究者には貴重な資料と
なるであろう。蔵書の書誌学的或は医史学的価値について
は言うまでもないが、漢方医学が再認識されつつある今日、
臨床的にもまた計り知れない価値を持つものである。」
まさにそのとおりであろうと思う。

（小曾戸 洋）

〔鶴見大学図書館・横浜市鶴見区鶴見二一―三、電話〇四五
一五八一―一〇〇一、一九九四年一月発行、A5判、一〇八
頁、非売品〕